

# 鹿島の杜

常陸国一之宮 鹿島神宮

平成二十六年九月  
式年大祭御船祭祭斎行

keisukedayo

ある日の早朝……

---





「鹿島神宮が造られたのはいつか」

第一代神武天皇（じんむてんのう）が天皇の位についた年に、  
神武天皇が鹿島の地に使いを派遣して造られせた、と伝えられています。  
一般的には、神代（じんだい）から、人代にかわったときで、約2660年前と言われています。

【かしま】を漢字で【鹿島】と、どうして書くのか。

養老2年（718年）以前に書かれた常陸国風土記には、【香島郡】（かしまのこおり）と書かれています。  
香島郡の名前は、【香島天之大神】（かしまのあめのおおかみ）の郡より、香島郡と付けられたのです。

養老7年（723年）ごろから、鹿島神宮の神鹿の【鹿】の字を取って  
【鹿島】と書くようになったと伝えられています。

続日本記では【鹿島】と書いてあります。（HPより）

一之宮（いちのみや）又は一宮とは、ある地域の中で最も社格の高いとされる神社のことである。  
通常単に「一之宮」といった場合は、令制国の一之宮を指すことが多い。  
一之宮の次に社格が高い神社を二之宮、さらにその次を三之宮のように呼ぶ。  
平安時代の延喜式（えんぎしき）によると  
伊勢神宮・鹿島神宮・香取神宮の3社だけが神宮の称号で呼ばれており、  
これは江戸時代まで続いています。それだけ特別な神社なのです。

中臣氏が常陸国・下総国出身であったという関係で、中臣氏出身の藤原氏にも篤く信仰された。  
武甕槌神は経津主神とともに春日大社に勧請され、藤原氏の氏神（春日神）の1柱として祀られている。



# 鹿島神宮

---

鹿島神宮は、茨城県鹿嶋市にある神社。

式内社、常陸国一之宮、旧社格は官幣大社。

日本全国に約600社ある鹿島神社の総本社。

同県神栖市にある息栖神社、千葉県香取市にある香取神宮と合わせて  
"東国三社"と呼ばれています。

武甕槌神（たけみかづち）を祭神とする。

武甕槌神は、香取神宮に祀られている経津主神と共に武芸の神とされています、

武術の道場に「鹿島大明神」「香取大明神」と書かれた2軸の掛軸が

対になって掲げられていることが多いのはこの為です。

時代劇などの道場シーンを御覧になれば良くわかります。

## 鹿島立ち（かしまだち）

旅行に出発すること。旅立ち、門出。言葉の由来には諸説あるようですが、

其の1

奈良時代、東国から筑紫（つくし）、吉岐、対馬などの要路の守備に赴いた防人（さきもり）が、

任地へ出発する前に鹿島神宮の前立ちの神たる阿須波神（あすはのかみ）に

道中の無事を祈願したことに始まり、のち武士にもこの習慣が伝えられたという。

其の2

鹿島、香取（かとり）の神たる武甕槌（たけみかづち）、経津主（ふつぬし）の二神が

天孫瓊瓊杵尊（ににぎのみこと）の降臨に先だって、

葦原中津国（あしわらのなかつくに）を平定したことに基づくとする。



参道を歩く時、道の中央部分を歩いてはいけません。

そこは、神様がお通りになる場所です。

中央部分は避けて歩きましょう。









平成十年三月吉日













- 1.右手で柄杓をとり、清水をくんで、左手にかけて清めます。
- 2.柄杓を左手に持ちかえて、同じ要領で右手を清めます。
- 3.再び柄杓を右手に持ち、左の手のひらに水を受け、その水で口をすすぎます。
- 4.最後に柄杓をたてて、柄に残った水を流し、柄杓置きに伏せて置きます。



## 楼門

---

1642年（寛永19年）に初代水戸藩主徳川頼房の手により造営された、総朱漆塗り、2階建ての楼門。

頼房公は水戸黄門光圀公の父親です。

この楼門は「日本三大楼門」に数えられています。

因みに「日本三大楼門」とは、

[鹿島神宮\(茨城\)](#)、[阿蘇神社\(熊本\)](#)、[筥崎八幡宮\(福岡\)](#)









































## 神札授与所（しんさつじゅよしよ）

---

神札の授与を行っています。

体育会系の人が、ウェアの下に縫いつけて試合にのぞむ、  
ご利益（りやく）のある、お守りもあります。

鹿島神宮の武甕槌大神（たけみかづちのおおかみ）は武道の神様です。

体育会系の方の強い味方です。（HPより）





おみくじも各種取り揃えて……



## 本宮（拝殿）

---

社殿は、本殿・拝殿・石間・幣殿の4つの棟よりできています。

社殿は、1618年（元和5年）

江戸幕府二代目将軍、徳川秀忠公が奉納されました。

万葉の時代には、常陸国（茨城県の旧名称）を関西地方の人は、

別名【日出ずる国】（ひいずるくに）と呼んでいました。

関西地方の人にとっては、日本の東の外れの国、と意識していたみたいです。

外的からの脅威（きょうい）に対する防衛拠点として

「本殿は北を向いている」と伝えられています。（HPより）





## 二拝二拍手一拝

1. 神前で頭を下げ、二回礼をします。
2. 両手を胸の位置で合わせ、右手を指の一節分ずらし、二度手を打ち、再び両手合わせます。
3. 祈りをこめてから手を降ろします。
4. 最後にもう一度、礼。











参拝の作法  
脱帽 二 拜  
二拍手 二 拜  
神拝詞  
杖へ触ひ  
清め触へ  
守り触ひ  
幸へ触へ  
三 唱

三ノ宮 御祭神  
三ノ宮 御祭神  
三ノ宮 御祭神  
三ノ宮 御祭神  
三ノ宮 御祭神





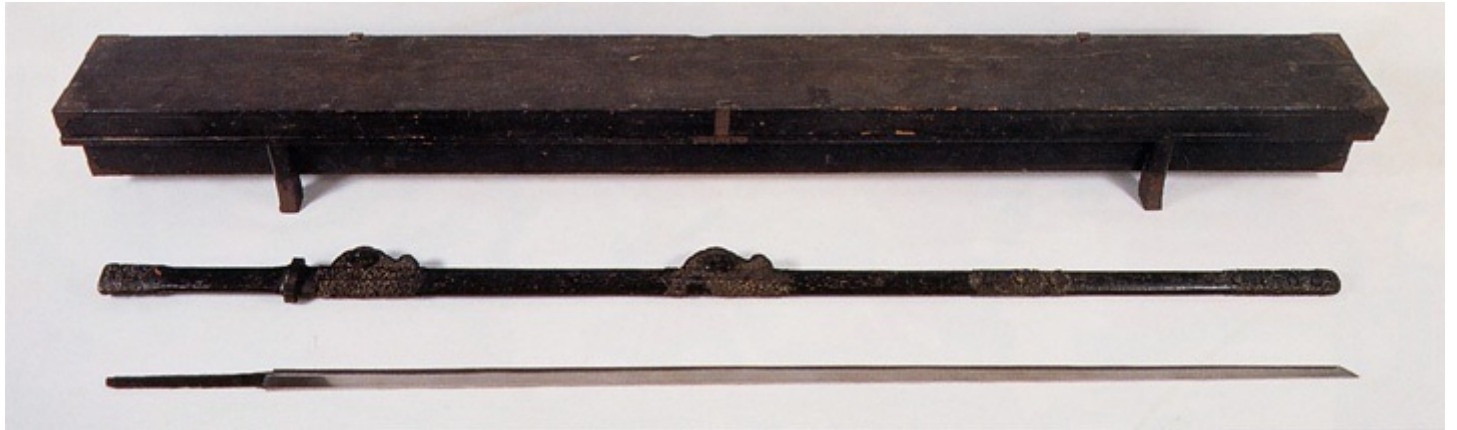








本殿を修理するときなど、一時的に神様を移す社殿です。  
元和4年に建てられました。



直刀・黒漆平文大刀拵（ちよくとう・くろうるしひょうもんたちごしらえ）、附：刀唐櫃

「布都御魂剣（ふつのみたまのつるぎ）」「平国剣（ことむけのつるぎ）」とも呼ばれる。  
柄（つか）・鞘を含めた全長2.71m、刃長2.24mの直刀。

奈良時代末期から平安時代初期の制作。

現存する伝世品（出土品でない）の日本刀の中では、古例の1つであり、

また刃長の点では最大の作品とされる。

長大な刀身を作るために、途中4か所で刀身を繋ぎ合わせるという

極めて珍しい手法を使っていることが判明しており、技術的にも貴重な存在。

外装（柄・鞘）は、黒漆塗りの上に平文（ひょうもん、金銀などの薄板を貼って文様を表す技法）や

金銅透かし彫りの金具で装飾を施した古様な技法によるもので、

正倉院の「金銀鈿荘唐大刀」の流れを汲む。





重要文化財 梅竹蒔絵鞍



県文 太刀 銘 景安



県文 古瀬戸狛犬

県文「銅印」 申田宅印



県文 木造狛犬





県文 黒漆螺鈿蒔絵台



香木 沈香

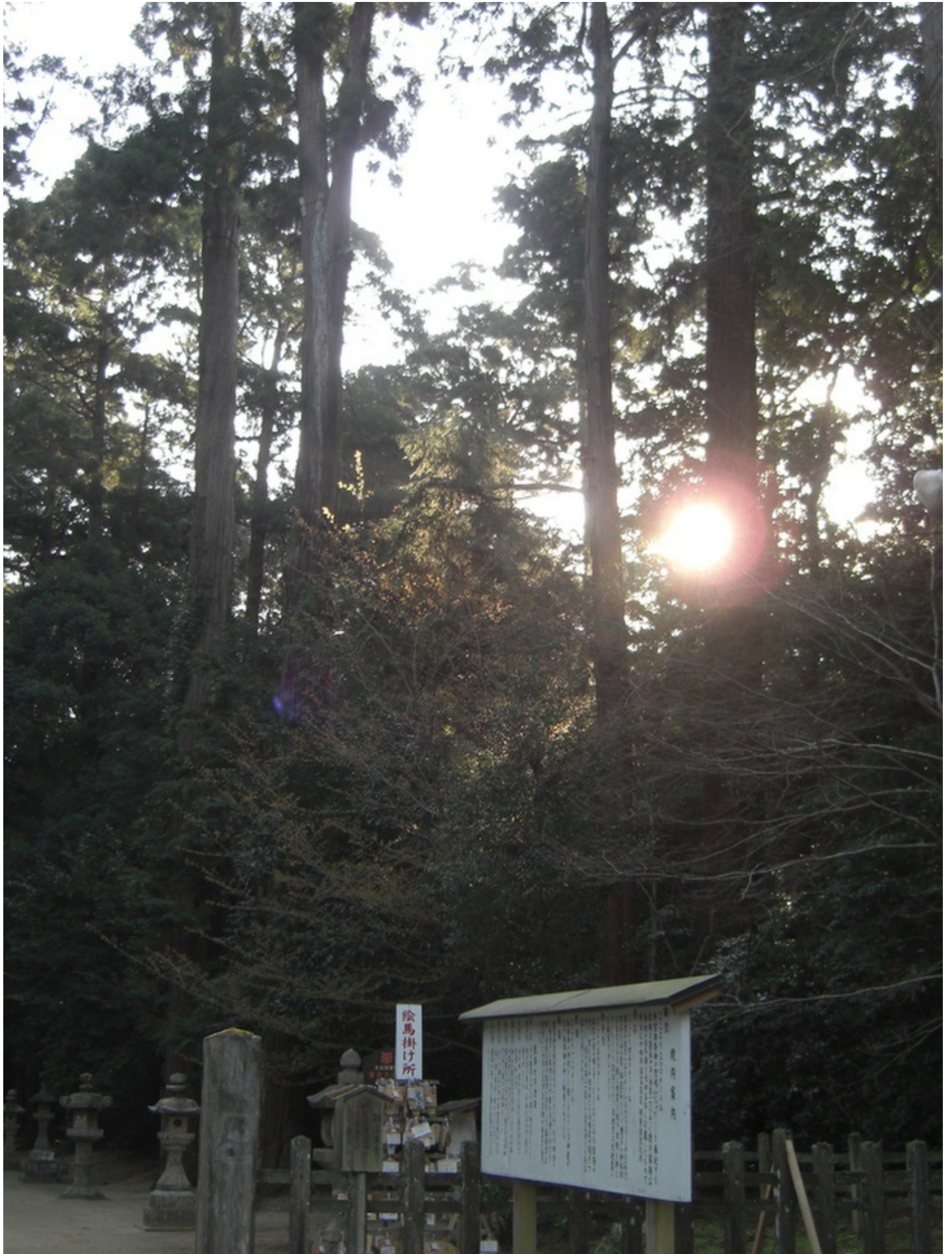






拝殿周辺には数人の人影がありましたが  
この先では、ほとんど人には会いませんでした。  
鹿島の杜、独り占め……。







一切の音が無い……

---







周囲には……





人の気配も感じられない

---





朝日も特別なものを感じる

---















## 鹿園

---

神様のお使いとして親しまれている鹿がいる鹿園（ろくえん）です。  
神門から120メートルの場所に鹿園があり、30数頭の日本鹿がいます。

「鹿島神宮のお使いはなぜ鹿か」

鹿島神宮の神様である武甕槌大神の所へ、大国主神から、葦原中国を譲り受けるようにとの、天照大御神の命令を伝えにきたのは、天迦久神です。

天迦久神は、【鹿の神様】とされているところから、鹿島神宮のお使いが鹿であると伝えられています。

（HPより）













ジ〜ッ!!



じ〜っ!! カメラ目線。



# 鹿島の七不思議

---

## 鹿島の七不思議

### 1. 要石

地震を起こす大なまずの頭を押さえているといわれている霊石。

黄門光圀公が、七日七晩掘っても掘りきれなかったともいわれています。

### 2. 御手洗

大人が入っても子供が入っても水面が胸の高さを超えないといわれる。

宮造りの折一夜にして湧出したとも伝えられています。

### 3. 末無川

鹿島神宮の東方にあり、水の流れが地中に潜ってしまい末がわからない川。

### 4. 御藤の花

かつて拝殿近くにあった藤原鎌足の手植えのものといわれている藤の花で、

花の多い少いで豊作・凶作が占えた、といわれています。

### 5. 海の音

鹿島灘の海の音が北に聞こえる時は晴れ、南に聞こえる時は雨といわれる。

### 6. 根上がりの松

鹿島神宮や高天原に生える松はすべて切り株から芽が出て何度切っても枯れないそうです。

### 7. 松の箸

鹿島山に生える松で作った箸はヤニが出ないといわれています。





張り詰めた空気・・・えも言われぬ緊張感、

---





誰もいないはずの空間に、

---





何かの存在、

---



何者かに見られている感覚、

---





じっと見つめられている感覚、

---





それは不気味なものでは無く





見守られている安堵感……、温かい。

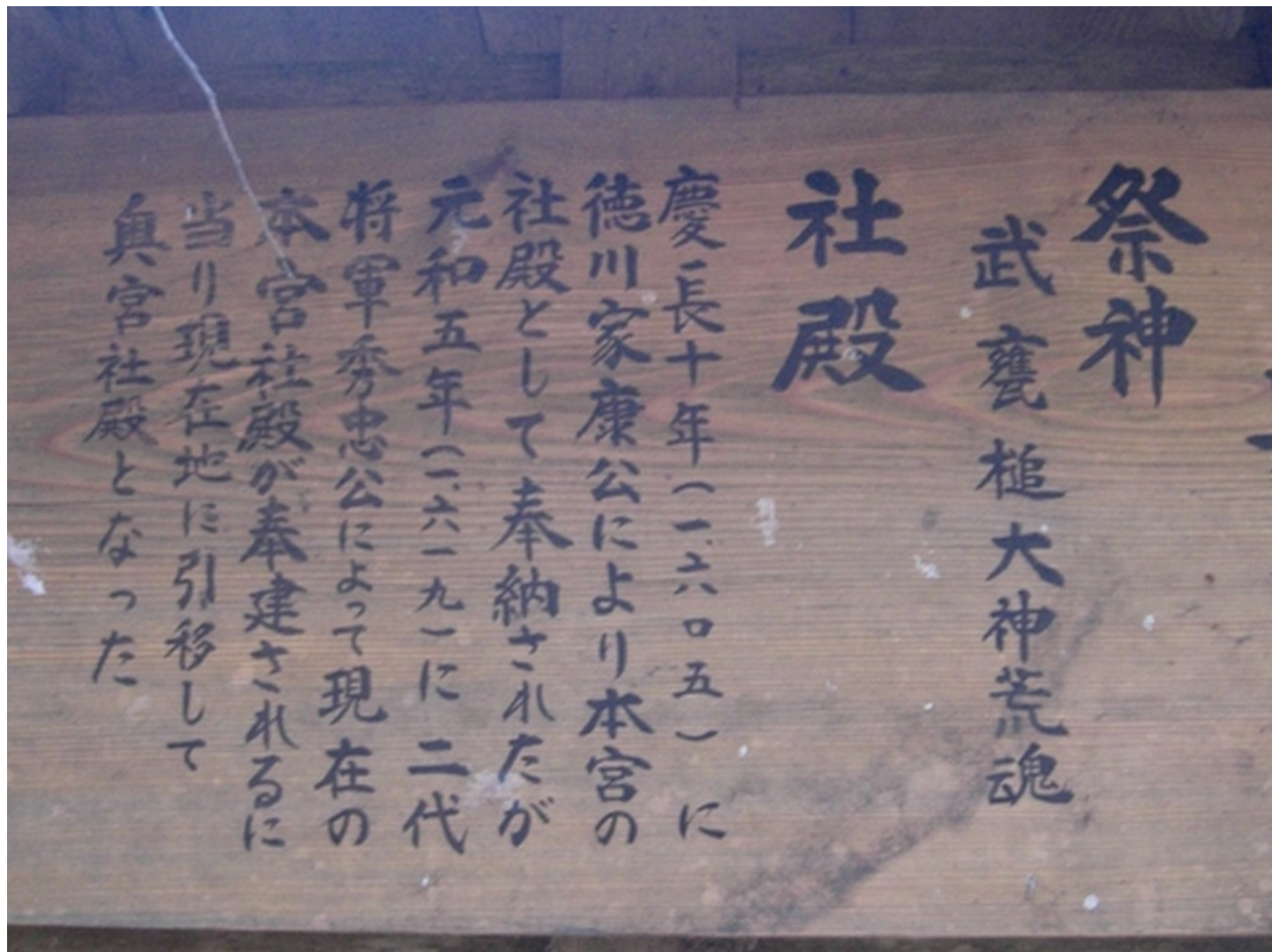
---











江戸幕府の将軍徳川家康公奉納の奥宮（おくのみや）です。

神門より300メートルの所にあります。

慶長10年（1605年）に本殿として奉納された建物を元和5年の造営のときに場所を移して、

奥宮としました。

安土桃山風の建物です。（HPより）











































## 要石（かなめいし）



地震を起こす地底の大鯰（おおなまず）の頭を要石が押さえているから、鹿島地方では、大きな地震がないと伝えられています。

見た目小さな要石、実は地中深く続いている巨岩で、地上部分は氷山の一角です。徳川光圀公（黄門様）が、要石の根本を確かめようと、七日七晩この石の周りを掘りましたが、掘れども掘れども翌日の朝には掘った穴が元に戻ってしまい確かめることができませんでした。しかも、ケガ人が続出した為掘ることをあきらめた、という話が【黄門仁徳録】に伝えられています。

現在、要石の下には鯰（ナマズ）がいると言われていますが、その昔は龍がいると言われていました。

万葉集には、  
『香島の大神がすわられた石の御座』とも  
『古代における大神奉祭の岩座』とも伝えられる霊石です。



## 御手洗池

---

昔はここで禊をして参拝したと伝えられています。

また、大人が入っても、子供が入っても胸の深さの池と言い伝えられ  
鹿島の七不思議のひとつとして数えられています。

御手洗池の水は、神代より枯れることがなく、その水は清く旱魃にも絶えたことがないとされ

、  
今でも「お茶を立てるときの水に」と、くみにくる人が絶えないそうです。

# 御手洗

古来、神職並びに参拝者の潔斎の池である。池の水は清く美しく、朝夕四時滾々と流れ出てどのようにならぬにも絶えることのない霊泉で、神代の昔御祭神が天曲弓で掘られたと云、宮造りの折一夜にして湧出したと云、伝えられ、大人子供によらず水位が乳を越えないという伝説により、七不思議の一つに数えられいら。

大昔は当神宮の参道が、この御手洗を起点として、この池で身を清めてから参拝するので御手洗の名が今に残るのである。











池の際に立つと、鯉たちが集まってきます。









## お休み処

---



早朝だったので開いていませんでした。





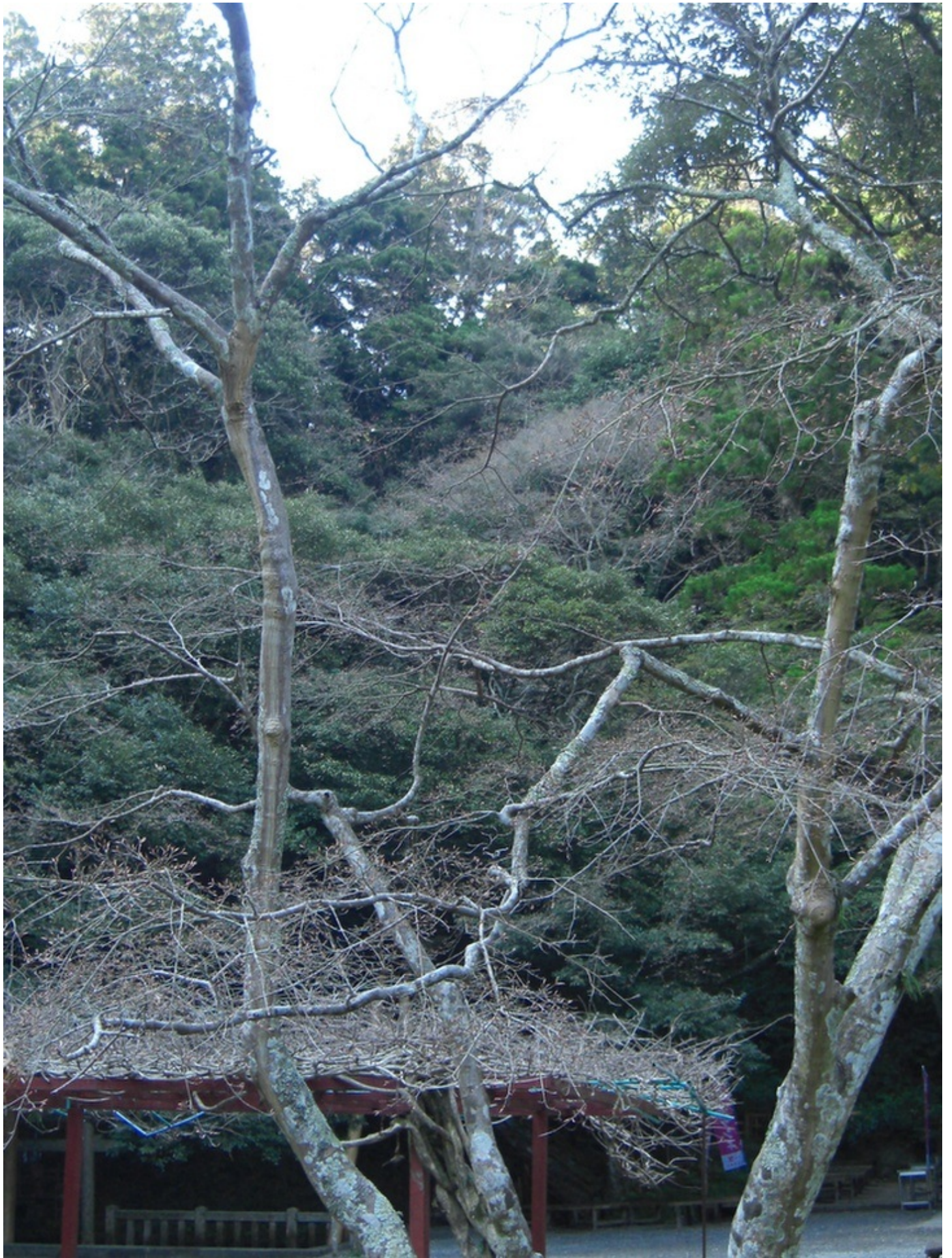
朽ちてなお 放つ存在感。





御手洗池奥の庭園です。











ありがとうございました。

---



# 鹿島の杜

常陸国一之宮 鹿島神宮

<http://p.booklog.jp/book/49942>



著者

## keisukedayo

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/keisukedayo/profile>

感想はこちらのコメントへ <http://p.booklog.jp/book/49942>

ブックログ本棚へ入れる <http://booklog.jp/item/3/49942>

